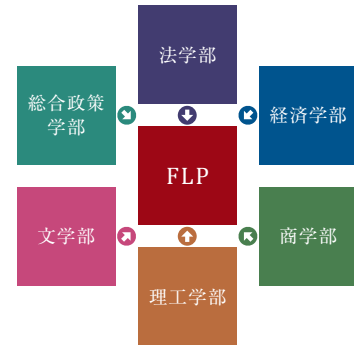


学部の垣根をこえた、刺激的な学びの場

FLP (ファカルティリンケージ・プログラム Faculty-Linkage Program) は、幅広い学問領域をもつ総合大学のメリットを生かした教育プログラムです。各学部に設置された授業科目をピックアップして、5つのプログラムを設定。所属学部で主専攻を修めながら、学部の枠を越えて設けられたプログラムを体系的に学修することで、複数の専門知識をもった学際的な視点を身につけることができます。



■ 新たな知識領域を広げる5つのプログラム

主専攻の学びにプラスして、他分野の高度な専門知識や能力を身につけられるFLPは、中央大学のどの学部の学生でも履修することができます。他学部の学生と一緒に学ぶので、知的な刺激が生まれ、ゼミの仲間たちとの交流を通して、視野や人間関係が広がるのもFLPならではの魅力。以下のような5つのプログラムを設置し、学生の知的興味や好奇心に応えています。

01 環境・社会・ガバナンスプログラム

環境問題を複数の視点から学び、自然と調和しながら社会活動を継続させるために必要な取り組みについて考え、よりよい解決策を提起できる能力を養います。

02 ジャーナリズムプログラム

マス・メディアの世界で活躍するための広い視野を持ち、物事の本質を深く考察・分析・報告できる能力や日本語および英語の文章力などを養います。

03 国際協力プログラム

開発途上国の諸問題を、社会開発と教育・環境、経済開発戦略などの多角的な視点から総合的に研究し、貧困問題の解決に貢献できる能力を養います。

04 スポーツ・健康科学プログラム

スポーツを健康、医療、文化、ビジネス、サービス、行政などとの関連の中で多面的に理解し、幅広い分野でスポーツの発展に寄与できる能力を養います。

05 地域・公共マネジメントプログラム

さまざまな課題を抱える地方自治体の要望に応えられるよう、専門的な知識やスキルを修得。地域社会で、課題解決の政策形成を担える能力を養います。

■ ゼミ形式の学び + 実践的なフィールドワークの学び

FLPの学びの中心となる「演習科目」では、少人数のゼミナール形式で研究を行います。興味のあるテーマの調査・研究を自主的に進めながら、ゼミの仲間とディスカッションをしたり、見学調査や実態調査などのフィールドワークも行います。

■ 卒業単位として認定されるFLPの修得単位

プログラムで修得した講義科目(プログラムによって10~20単位)と演習科目(12単位)の単位は、原則として全て所属学部の単位(卒業単位として認定)になるので、所属学部の学修と両立して無理なく知識を深めることができます。

01

環境・社会・ガバナンスプログラム



自然科学、社会科学、人文科学の視点から環境問題を考える。

私たち人間は地球の資源を利用して、豊かな生活を追求してきましたが、その結果、地球温暖化や資源の枯渇など、数多くの深刻な問題を引き起こしています。これらの問題の解決には、環境についての理解（自然科学）、環境問題が経済や社会に及ぼす影響（社会科学）、また環境に対する政策設計（人文科学）などの知識が求められます。本プログラムでは、それら多様な知識を身につけ、環境・資源問題の解決に意欲的に取り組む人材を育てます。

2018年度の開講テーマ例

地球環境政治とガバナンス／環境と市場経済／水環境を中心とした環境問題とその対策＜化学物質汚染とその影響評価＞／エコツーリズムを通じて農山漁村の未来を考える／生物多様性と地球環境／都市環境マネジメント／環境政策論

将来の進路

本学の大学院および国内外の大学院への進学をはじめ、環境の専門家として法律家、会計人、公務員、国際公務員、政治家や研究者などを目指します。

02

ジャーナリズムプログラム



理想的なジャーナリズムの姿とはなにか？

本学は長谷川如是閑や杉村楚人冠をはじめ、日本のジャーナリズム史上に残る著名人を多数輩出しています。この伝統を継承し、さらなるジャーナリズムの発展に貢献するために開設されたのが、本プログラムです。広い視野をもち、物事の本質を深く考察、分析できる能力を養います。同時に、日本語と英語の文章力、プレゼンテーション能力など、実践的な力やスキルも身につけ、広くマス・メディアの世界で活躍する人材を育成しています。

2018年度の開講テーマ例

トップで心優しい新聞記者を育てる／明治前期のメディア史研究／学問としてのジャーナリズム、および、取材・表現活動の実践／放送文化論／現代社会の変容研究 - デジタル革命による社会の変容について - / 放送用番組の制作およびノンフィクション執筆の実践 / ポピュラー文化とメディア変容

将来の進路

本学の大学院および国内外の大学院への進学をはじめ、新聞・通信社、出版、放送・通信、映画、広告、PR会社、音楽業界等への就職を目指します。

国際協力プログラム



途上国の開発や貧困に関する諸問題の解決法を探る。

アジアや中東、アフリカ、中南米諸国など、多くの人びとが現在も貧困にあえいでいます。本プログラムは、貧困問題の解決に貢献する人材の育成を目指して開設されました。「社会開発」「経済開発」「国際関係」「国際ビジネスとコミュニケーション」という4つの視点から、途上国の開発などについて総合的に研究するとともに、語学力やコミュニケーション能力も養います。演習科目では、アジアの途上国など現地での社会調査も行っています。

2018年度の開講テーマ例

グローバル経済環境における多国籍企業/発展途上国の格差・貧困問題と経済・社会開発：学際的・現場重視型アプローチ/モンゴルにおける観光産業発展の可能性(現地貢献型ゼミ)/日本文化紹介英語プレゼンおよび近代社会の共通課題(サステナビリティ)/Diversity and Decision Making/求心力・持続可能性・多様性のあるまちづくり/ビジネス・コミュニケーションとその関連分野の研究/企業・産業の国際比較～グローバル思考養成のために/企業・産業の国際比較分析～ケーススタディを中心として/惑星規模の問題解決と異文化理解と異文化間コミュニケーションに基づくコミュニティ形成のための国際フィールドワーク/世界に働きかける：グローバルな市民社会活動の創造/開発問題と国際協力の基本的理解と研究/国外実態調査を通じた開発問題の研究と国際協力の検証/国際協力に関する問題意識の深化と先鋭化/開発途上国における農漁村社会の持続的開発/国際協力論

将来の進路

本学の大学院および国内外の大学院への進学をはじめ、国際公務員、国際NGO・NPO、開発援助関連の機関、多国籍企業等への就職を目指します。

スポーツ・健康科学プログラム



スポーツの発展に寄与する人材の育成をめざす。

少子高齢化における健康問題や、ストレスフルな社会での心身の健康維持は、現代の重要な課題です。またスポーツの世界では、プロ競技やメディアなどで巨大なマーケットが形成され、多種多様なビジネスが展開されています。スポーツや健康にまつわる、医療・文化・ビジネス・サービス・行政などの問題を、多面的・総合的に研究するのが、本プログラムです。スポーツや健康に関わる社会的ニーズと多様化に対応できる人材を育てます。

2018年度の開講テーマ例

スポーツ心理(認知・行動)部分を知る/身体感(観)と身体論/大学スポーツ振興(Sport for All)、スポーツと生命教育(Lifesaving)/運動生理の基本を理解し、健康・スポーツ関連情報のリテラシーを身につける/野外教育および自然体験学習の理論と実践について学習する。また、野外活動の安全管理、野外活動を通じた安全教育の可能性について探る。関連領域の資格取得に挑戦する/大学スポーツ、中大スポーツ振興/スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

将来の進路

本学の大学院および国内外の大学院への進学をはじめ、スポーツ関連業界(スポーツメーカー、広告代理店、代理人、フィットネス産業、介護ビジネス、社会教育、社会福祉、スポーツメディア、プロスポーツチーム)等への就職を目指します。



地方自治体が抱える 複雑な社会的課題を考える。

地方自治体はそれぞれの地域で、少子高齢化の進行と福祉、地場産業や商店街の衰退、地域の環境や治安、教育問題、市町村合併、財政赤字の拡大など、複雑で多様化した課題を抱えています。このような時代の要請から、本プログラムでは、あらゆる社会的課題に対応して、公共マネジメントの政策形成ができる人材を育成しています。中央官庁や都道府県庁などの地方自治体、NPOやシンクタンクなどの外部機関と協力して、フィールドワークも活発に行っています。

2018年度の開講テーマ例

地域資源を活かした地域経営を考える：そのための地域資源の再発見・再評価、マネジメント/地域のグローバル化、プレミアム化による地域創生 / 比較都市史研究/ 地域における雇用創出について考える / 地域に関する研究論文の作成 / 地域経営と地方財政 / 男女共同参画社会の推進—少子化克服とともに考える / 男女共同参画社会の実現 / 現代日本社会において人びとが生きていく場所としての地域を考える / 「3.11以降」のコミュニティ形成のための「フィールドワーク」養成 / 地域文化振興の実践 / スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究 / 市町村合併 / 地域における犯罪予防と再犯減少策の調査研究 / まちづくりの成功事例の定量的検証

将来の進路

本学の大学院および国内外の大学院への進学をはじめ、国家公務員、地方公務員、地域公益団体職員、政治家、政策秘書、シンクタンク、NPO法人、社会起業家、ベンチャー企業家、コミュニティビジネスリーダーなどを目指します。

履修生 Interview



少人数制の丁寧な指導で 新聞記者として必要な力を高め、 夢を実現しました。

ジャーナリズムプログラム

総合政策学部 政策科学科4年
(※2018年1月に取材)
私立品川女子学院高等学校
(東京都)出身

長岩 真子 Mako Nagaiwa

私が履修していたゼミの魅力は、新聞記者として活躍していた講師による丁寧な指導です。ゼミ生は1学年につき5人と少人数で、苦手なところを克服するまでとことん指導していただけます。授業では、日々の新聞記事を読み比べたり、新聞記者が直面する問題などについて意見を交換したりします。宿題として、毎週800文字の作文を書いて講師に添削していただきます。議論や作文を書くことを通して、新聞社の入社試験で必要とされる作文力、取材力、質問力、応答力を身に付けることができました。4月から、読売新聞社の取材記者になります。タフで心優しい記者になりたいです。

■履修時の注意

プログラムは、新規開講・廃止することがあります。1年次に選考試験を行い、2年次からプログラムが開始します。FLPにて開講されている全プログラムには定員があり、希望者全員が履修できるわけではありません。演習科目をはじめとするプログラム修了に必要な科目の多くは、多摩キャンパスで開講しています。ガイダンス等、履修までのスケジュールはCplusにて公開します。

■お問い合わせ

全学連携教育機構事務室(多摩キャンパス5号館ペデ下)

E-mail: flp@tamajs.chuo-u.ac.jp TEL: 042-674-3663 FAX: 042-674-3666 WEB: <http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/gp/>